

## 症例検討会のお知らせ

**#1 腎臓内科**  
 演題：透析導入となった紹介患者さんについて  
 日時：平成29年10月31日(火) 19:30~21:00  
 会場：多摩北部医療センター 2階大会議室  
 演者：多摩北部医療センター 腎臓内科 大下 格

**#2 リウマチ膠原病科**  
 演題：関節炎へのアプローチ  
 関節リウマチの診断・治療の実際  
 日時：平成29年11月22日(水) 19:30~21:00  
 会場：多摩北部医療センター 2階大会議室  
 演者：多摩北部医療センター リウマチ膠原病科医長 永井 佳樹

お申し込みは、  
当院の地域医療  
連携室へご連絡  
ください。

### 紹介・予約のご案内

患者さんのご紹介にあたっては「紹介状(診療情報提供書)」と「受診科のご予約」をお願いいたします。また、紹介状には受診科の明記をお願いいたします。初診時に紹介状が無い場合は、診療費の他に選定療養費として1,338円(税込)が加算されます。

#### 予約センター

**予約専用電話:042-396-3190・3511**

予約受付時間：月～金曜日 9時～19時・土曜日 9時～12時  
 ※お急ぎや受診予約希望や、受診に関してご相談等の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。  
 (受付時間：月～金曜日 9時～17時)

#### 各種検査予約

**代表電話番号:042-396-3811**

#### 放射線

代表番号より下記へご連絡願います。(受付時間：月～金曜日 9時～17時)  
 CT・一般X線検査：内線 2236 MRI 検査：内線 2600  
 核医学検査：内線 2140 放射線治療：内線 2073・2169

#### 内視鏡

予約センター又は地域医療連携室へご連絡の上、「内視鏡外来(金曜午後)」のご予約をお願いいたします。なお、内視鏡外来は、紹介予約制とさせていただきます。

《お知らせ》

内視鏡室は、2室から**3室に増室**しました。患者様の安全面にも配慮し、より快適にお使いいただけるように改修しています。ご紹介をお待ちしております。



《地域医療連携ニュース「たまほく」に関するお問合せ》  
 地域医療連携室 042-396-3811 内線 2073



多摩北部医療センター  
 地域医療連携ニュース 第104号

# たまほく

平成29年10月



## 多発性嚢胞腎を知っていますか？

腎臓内科部長 小林 克樹

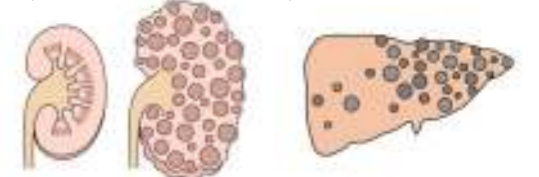


腎臓病にもいろいろな種類がありますが、そのうちの一つに常染色体優性多発性嚢胞腎という病気があります。病名が長いので、日本だと略して「嚢胞腎」と呼ばれ、欧米だと略称として「ADPKD」が使われています。

病気の特徴は二つあって、その一つは腎臓や肝臓に嚢胞と呼ばれる袋が多発することです(図1と図2)。嚢胞は、生まれた時にはほとんど目立ちませんが、徐々に数と大きさを増していき、それと同時に腎機能が低下して、個人差もありますが、患者さんの約半数は60歳代で透析を始めることとなります。

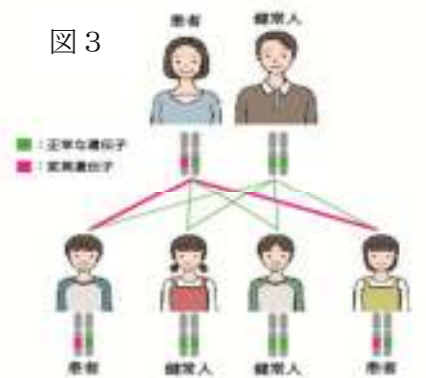
図1

図2



もう一つは遺伝する病気だということです。お父さんかお母さんがこの病気だと、生まれた子供の半分は病気を遺伝します(図3)。罹患率(病気になる確率)には性別による差や人種差がほとんどなく、2000~3000人に1人とされています。

図3



30歳を超えると嚢胞はかなりの数と大きさになりますので、診断は単純CT検査や超音波検査で比較的簡単に付けることができます。

従来、治療としては高血圧や腎不全に対する対症療法しかありませんでしたが、最近サムスカという薬を使うことができるようになり、病気の進行そのものを遅らせることができるようになりました。もし、興味がある方がいらっしゃるようでしたら、ご遠慮なく当科までお問い合わせください。

### 腎臓内科に新しい仲間が増えました！

本年4月1日付で当院の腎臓内科に**大下格**先生が着任しました。大下先生は平成25年に山口大学医学部を卒業した後、茨城県の「JAとりで総合医療センター」で初期臨床研修を修了し、さらに埼玉県草加市立病院で腎臓内科医として2年間の研修を積んで、当院に来ることになりました。東京医科歯科大学の腎臓内科に所属しており、いわゆるローテーションの一環ですが、当科としては久しぶりの若手医師の派遣であり、新しい力と考えを吹き込んでくれるものと期待しています。どうぞよろしく申し上げます。



大下 格 医師

# リウマチ膠原病科のご紹介

リウマチ膠原病科医長 大島 美穂

当科は2015年4月に私が初めて常勤医として着任し3年目となり、現在では北多摩北部地区（東村山市、清瀬市、東久留米市、小平市、西東京市）及び隣接の埼玉県南部地域（新座市、朝霞市など）において唯一、複数の常勤の膠原病専門医が在籍しています。膠原病の固有病床を持ち、入院、外来ともに専門的かつ最新の診療を行っております。

おかげさまで地域の先生方の積極的なご紹介により、膠原病患者さんが地元で専門医療を受けることが可能となり、さらに地域のリウマチ膠原病専門医の先生方にご協力いただき、地域全体で膠原病患者さんを医療面から支える連携体制ができました。

当科は、膠原病の診断・治療だけではなく、感染症を含む様々な合併症、機能障害を有する関節リウマチのリハビリ入院、不明熱の精査などに幅広く対応し、膠原病患者さんが少しでも円滑に日常生活が送れることを目標にしています。

膠原病は全身性疾患であり、多彩な症状で発症します。代表的疾患である関節リウマチ以外にも、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症など、さらに当地域に多い高齢者ではリウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA 関連血管炎などがあり、積極的に診療しております。多関節炎、不明熱、原因不明の筋痛・皮疹、ぶどう膜炎、膠原病検査値異常など膠原病を疑う症状や所見がありましたら、ぜひ当科にご相談下さい。

## 新しい仲間のご紹介

リウマチ膠原病科医員 杉原 誠人

2017年4月より常勤医として当院に赴任いたしました。前職の茨城県には医療過疎地域が多く、専門医が少ない中で病診連携を大切にしながら診療を行っていました。この地区にもまだ診断されていない関節リウマチや膠原病の患者さんが多く、私も地域の先生方のお役に立てる機会もあるかと考えています。関節痛や不明熱などでお困りの症例がありましたらお気軽にご紹介ください。よろしくお願いたします。

# 自己抗体検査とアレルギー検査の院内検査を始めました！

検査科技師長 助川 久美子

検査科では、平成28年1月の検体検査部門の自主運営方式への切り替え時に、ほぼ全ての自動分析装置を更新しましたが、新規に ThermoFisher 製の「ファディア 250」を導入しました。この装置は、特異的IgE、総IgE、自己抗体の測定が可能となっています。

自己抗体検査は平成28年4月より、アレルギー検査は平成28年12月より院内検査を開始しています。

測定可能な項目は、アレルギー検査では約200種類、自己抗体検査では16種類ですが、当院では、ハウスダストや食品等のアレルギー検査44項目、MPO-ANCA 等の自己抗体検査13項目の検査を実施しています。

院外委託項目となっている病院が多い検査ですが、院内実施のアレルギー検査項目は、国内の検査センターと同じ試薬・方法（FEIA法）を用いています。自己抗体検査（FEIA法）は、試薬の違いなどにより一部の検査で検査結果の乖離がみられることがあります。

これからも診療現場からのご要望にお応えし、新規項目導入に対応するとともに迅速・正確な検査結果の提供に取り組んでまいります。



# 放射線科（治療部門）から新しいRI内用療法のご紹介

放射線科部長 永島 淳一



RI内用療法は、内照射療法、核医学治療とも呼ばれ、放射線核種を含んだ薬剤を病巣に選択的に取り込ませて放射線を照射する方法です。当院でも、骨転移の疼痛緩和にストロンチウム（Sr-89）メタストロン、B細胞性非ホジキンリンパ腫にイットリウム（Y-90）-ゼヴァリンを用いて行ってきました。今回ご紹介する薬剤は、**去勢抵抗性前立腺がん（CRPC）の骨転移治療を目的とした塩化ラジウム（Ra-223）ゾーフィゴ**です。CRPCの約8割の患者に骨転移が起こることが知られており、骨転移が起こると、痛み、病的骨折、脊髄圧迫、高カルシウム血症など、患者の生活の質を極度に下げの原因となります。そのため、骨転移の治療は進行した前立腺がん患者にとって非常に重要です。

Sr-89やRa-223は、骨の成分であるカルシウムと同じように骨に集まりやすい性質があり、代謝が活発になっているがんの骨転移巣に多く運ばれます。そして、そこから放出されるβ線やα線が、転移巣のがん細胞の増殖を抑えます。核種の違いでは、従来のSr-89がβ放出核種であり、Ra-223はα放出核種であり、半減期の違いのほか、その飛程が短いため骨髄への被ばくが少なく、また腫瘍に選択的に高い線量を与えることができます(表1)。

表1

核種	半減期 (日)	放出放射線当たりの平均エネルギー (MeV)	組織中の平均飛程 (mm)
Sr-89	50.5	0.58	2.4
Ra-223	11.4	27.4	<0.10

塩化ラジウム（Ra-223）の第Ⅲ相臨床試験（ALSYMPCA試験）で骨転移を有する去勢抵抗性前立腺がん患者を対象とした大規模な臨床試験が欧米で行われ、プラセボと比較し、全生存期間を延長し、骨関連事象発現までの期間を延長することが報告されました(図1)。

本年6月より塩化ラジウムの治療が、当院でも可能となりました。この治療法は、4週間ごとに1回、最大6回まで静注します。入院の必要はなく、外来での投与が可能です。治療期間が長いので、定期的な泌尿器科医との併診が必要となります。周囲の方々への被ばくの心配はありません。

塩化ラジウム（Ra-223）ゾーフィゴの適応は以下の通りです。

1. 去勢抵抗性前立腺がんの骨転移
2. 内臓転移（リンパ節、肝臓、肺転移など）がない。
3. 骨髄機能が十分に保たれている。（好中球数 $\geq 1,500/\mu\text{L}$ 、血小板数 $\geq 100,000/\mu\text{L}$ 、ヘモグロビン $\geq 10.0\text{g/dL}$ ）。

その他いくつかの適応基準がありますので、適応の有無についてご相談ください。また、当院へご紹介頂く際には直近の骨シンチグラフィ、CT、血液検査データを参考にさせて頂きましたら幸いです。

【主要評価項目】  
全生存期間(OS)を有意に延長

図1

